

# 中日会報

公益社団法人 中部日本書道会  
編集事務局 名古屋市  
〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45-19  
桑山ビル8階C号室  
電話 (583) 19000番  
FAX (583) 19100番  
http://www.cn-sho.or.jp  
info@cn-sho.or.jp  
印刷 株式会社 荒川印刷

## 理事長あいさつ



理事長  
伊藤仙游

理事長を拝命致しまして、既に三ヶ月が経過致しました。今日まで無我夢中で、何とか理事長の重責を果たそうと努力しております。

この間夏からの猛暑が長く続き、頻繁に発生する台風の影響もあり、大規模停電、家屋の損壊など、「想定外」と称される事案が多数発生しております。私達をめぐるとも環境が変化しているように感じますし、被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げます。

本会は去る六月十六日に総会、創立八十五周年記念第六十九回中日書道展表彰式を開催し、祝賀懇談会には約一〇〇〇名のご参加をいただき、盛大のうちに閉会する事ができました。心より御礼申し上げます。

本年度は役員改選の年であり、表彰式、祝賀懇談会の前に開催された理事會により、不肖ながら私が理事長を拝命致しました。誠に身の引き締る思いがします。理事長の名を汚さぬよう、この二年間、懸命に務めさせて頂きます。

今後の事業としては、会員名簿の発行、公開講座、壽書展、チャリティー愛の募金、年明けには第七十回記念中日書初め展など、目白押しに行事が予定されており、企画委員をはじめ担当各部の部長・次長・委員など、一丸となって成功に向けて頑張っております。会員、協賛会員の皆様にもご協力いただき、大勢の皆様にご参加いただけるよう祈念しております。

また本会は、公益社団法人の認可をいただいておりますので、その公益性を担保するためにも、友人、知人、一般の方々へ啓蒙して下さり、よ

り広汎に「気軽に参加できる中部日本書道会」として認知されますよう願っております。

来年度の中日書道展は第七十回の記念展となります。東京オリンピックの開催年でもあります。この機会を捉えて、中部日本書道会を広くアピールできますよう、第七十回展の記念企画を検討しております。入念に準備を行い、理事會のご承認を得ながら進めてまいります。企画委員はもとより、理事の先生方、各支部の皆様、会員各位のご協力を、切にお願い申し上げます。

書の裾野を拡げるため各事業の遂行にあたっては、「より多くの参加者、より多くの参観者」を目指してまいります。マンネリに陥ることなく、新体制のもと、理事・企画委員の新鮮な意見、発案等を重視しながら、新たな視野で企画・運営を遂行してまいります。今後ともご支援ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## 「2019年 チャリティー愛の募金」について

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

平素は、本会の福祉事業に対しまして、ご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。さて、本会では、毎年年末に「チャリティー愛の募金」を行っております。

つきましては、本会役員の先生方並びに会員の皆様には広く献金をお願いし、中日新聞社会事業団・東海テレビ「愛の鈴」へ寄託をして参りたいと思います。何卒主旨ご理解の上、下記の通りご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この募金の締め切りを、令和元年11月11日(月)といたします。

お申し込は、郵送された専用払込用紙にてお願い致します。

尚、献金の経過並びにご芳名は1月発行の中日会報でご報告をさせていただきます。

敬具

理事長 伊藤 仙游  
渉外宣伝部長 川崎 尚麗

### ご献金にお願いの基準

名誉会長代行、名誉副会長、常任顧問、理事、監事、顧問	10,000円
参与、評議員	3,000円
正会員	1,000円

チャリティー募金は寄付金として控除できます。

確定申告時には、領収書と証明書が必要です。領収書をご希望の方は本部事務局までご連絡ください。

証明書は中部日本書道会ホームページから印刷できます。  
ホームページ <http://cn-sho.or.jp/> メール [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)

### 目次

- 1 理事長あいさつ
- 2 チャリティー愛の募金
- 3 第三十一回 書道教育研修会
- 4 夏休み毛筆体験教室
- 5 第二十八回壽書展
- 6 第三十六回 読売書法展入賞者

- 6 第七十一回毎日書道展入賞者
- 7 第七十回記念 中日書きぞめ展作品集
- 8 第二回 手書き文字年賀状作品募集
- 9 第二十三回 書の魅力 公開講座 支部だより(上半期)

### 団体署名実施協力中

つなごう日本の書道文化  
ユネスコの無形文化遺産に



日本書道ユネスコ登録推進協議会

# 第31回 書道教育研修会

日時 令和元年8月6日 (火)

場所 名古屋国際センター

## 第三十一回書道教育研修会を

### 開催して

教育部長 廣澤凌舟

八月六日(火)名古屋国際センター五階において、第三十一回書道教育研修会(参加者三十九名【会員三十二名、一般七名】)を開催いたしました。

講座に先立ち、伊藤仙游理事長のご挨拶の後、書道講話では岡野楠亭副理事長が漢字の成り立ちについて、六書の「象形、指事、会意、形声、転注、仮借」の六書説をあげてお話しされ、皆さん興味深く聞き入っていました。



近代詩文講座 大島緑水先生



書道講話 岡野楠亭副理事長



漢字講座 伊藤暁嶺先生



漢字講座 研修風景



近代詩文講座 研修風景

漢字の伊藤暁嶺先生には「〜古典から学ぶ楷・行・草書」と題しまして実技講習をされました。前半は基本点画、腕法、筆の持ち方、書法等の説明があり、その後各自でテキストの楷書、行書、草書の臨書を行い、添削の指導を受けました。最後には、先生の作品を頂けるお楽しみがあり、午前の研修会を終えました。

近代詩文の大島緑水先生には「〜詩文書を楽しむ〜」と題しまして、近代詩文書の実技指導をいただきました。

書作の心得などをお話しいただいた後、大島先生による揮毫をみせていただき、自在の表現、筆さばきに受講者からため息や拍手が聞かれました。

いよいよお手本を見ながらの実習で、受講生の一人ひとりに構成や筆遣いなどに丁寧にご指導いただき、「詩文書は初めて」という受講生にも創作の魅力を楽しんでいただけました。

最後になりましたが、御多用中にもかかわらず講師をお務めいただきました先生方に厚く御礼申し上げます。また、お申し込みいただきました皆様にも重ねてお礼を申し上げます。

(文責：小島湖山、前田千登世)

# 第2回夏休み毛筆体験教室

日時 令和元年8月6日(火) 場所 名古屋国際センター

## 「第二回夏休み毛筆体験教室」を開催して

教育部長 廣澤凌舟

八月六日(火)名古屋国際センター三階におきまして、中学生を対象とした「第二回夏休み毛筆体験教室」を開催いたしました。

参加者は、九十三名で各九十分ずつ三部に分けて行いました。

参加者は、受付で名札を受け取り、着席後、希望するお手本を受け取りました。保護者の方にはアンケート用紙と今年のかきぞめ展の受賞者一覧をお渡しし、当会の取り組み概要をご覧いただきました。

お待ちいただく間は、受講生も保護者の方も緊張の様子でしたが、講師の先生の和やかな雰囲気には張りつめた空気が一変、リラックスした中でのスタートとなりました。

今回は夏の課題を一枚仕上げ持ち帰りたい受講生が多く、熱心に筆を動かしていました。

添削に作品を持っていくと、やさしく丁寧に指導していただいたり、褒めていただけたりと、楽しい経験となっていました。

今回は書塾に通っていない受講生が七割程で、保護者の方からは「家で書くより真剣に取り組んでいる」「教室へ通わせたい気持ちが強くなりました」等の嬉しいお声もいただきました。

最後になりましたが、ご多用中にもかかわらず講師をお務めいただきました先生方をはじめ、お手伝いをいただきました教育部の皆様には厚くお礼を申し上げます。



講師による書道用具等解説



講師による添削風景



毛筆体験風景(午前)



毛筆体験風景(午後)

\*講師敬称略

### 【一部】

- ・挨拶 加藤 裕 副理事長
- ・講師 上小倉 積山、武内 峰敏、内田 翠径、川浦 碧涛、坪井 景照、山内 江鶴

### 【二部】

- ・挨拶 松下 英風 副理事長
- ・講師 磯谷 凄聴、佐野 翠峰、伊藤 艸亭、田中 修文、林 柏堂、水野 峯翠

### 【三部】

- ・挨拶 横井 宏軒 事務局長
- ・講師 馬場 紀行、村瀬 俊彦、加藤 松雲、川崎 尚麗、谷 鴻風、山中 桂山

(文責:村瀬 彩光)

令和元年度 公益社団法人 中部日本書道会  
**第28回 壽書展**

70才以上の方を対象にご長寿をお祝いし、益々のご健勝を祈念して開催致します。  
 ご高覧下さい。

会場：電気文化会館 (5階 東・西ギャラリー) 名古屋市中区栄2-2-5  
 会期：令和元年11月12日(火)～11月17日(日)  
 午前10時～午後5時 (最終日は午後4時まで)

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社  
 後援：愛知県・愛知県教育委員会・岐阜県・岐阜県教育委員会・三重県・三重県教育委員会  
 名古屋市・名古屋市教育委員会

◇出品予定者

- |  |   |  |   |   |   |  |  |   |              |   |   |
|--|---|--|---|---|---|--|--|---|--------------|---|---|
| 森 三神 堀場 丹羽 中村 富田 坪井 津田 田中 武山 武山 高橋 近藤 権田 倉重 落合 安藤 松永 平松 小林 後藤 黒田 伊藤 鬼頭 安藤 樽本 | 清暉 榮軒 凶南 常見 秀峰 榮榮 景照 秋月 白雲 翠屋 昂石 秀箭 素光 穂園 拜石 深淵 秀川 清石 紫雲 落風 汀鶯 玄夏 昌石 翔雲 滴水 樹邨 | 小野田景月 尾中 尾関 奥住 岡地 岡田 大塚 大河戸 遠藤 梅村 宇野 鶴飼 石原 石原 猪飼 飯沼 栗田 赤堀 青山 青木 築瀬 中川 杉江 柴田 亀井 磯和 渡邊 | 中村 中川 永井 中井 戸崎 鴉澤 都築 多和田 竹内 高井 田尾 白木 下郷 志水 柴田 酒向 酒瀬川 近藤 近藤 小島 小島 幸村 熊崎 木村 川本 神谷 神谷 加藤 加藤 加藤 | 曾南 貴舟 青楓 港星 翠虹 澄江 妙光 墨濤 春翠 香園 穂昂 紫香 豊園 玉華 玲甫 虹風 香風 晴翠 雲洋 雪舟 岐香 溪雪 北咏 霞月 赫汀 静苑 采邑 碧涛 艸舟 松雲 | 浅井 縣 青山 渡辺 渡辺 山本 山川 森 三輪 宮田 三宅 光澤 本田 藤原 藤野 深田 坂野 早野 林 林 幅上 則武 野村 野々垣 野中 野田 丹羽 新美 中村 | 清泉 欣司 碧雲 北嶺 月潭 史鳳 昌泉 京華 晴風 清風 紀璋 閑石 秀岳 郁代 秀代 芳香 竹童 江郷 春翠 紫州 蘭香 穹 曉峰 清城 曾川 佳楊 裕 珠光 竹童 | 松田 牧野 堀 福田 廣瀬 花井 野村 信安 中野 永田 中田 田中 竹内 杉本 佐藤 佐々木 榊原 坂井 近藤 小早川 黒岩 熊谷 國廣 加藤 勝山 大野 今村 伊藤 伊藤 石倉 | 穂嬢 瑞風 美芳 祥光 玉樹 蘭徑 繁子 青嶺 秋石 正毅 菊香 桜花 芳華 錦楊 桃華 悠園 虹輝 諏谷 諏谷 弦謠 寿仙 芳枝 滋紅 瞬玲 禎邨 春翠 鴻仁 桜舟 | 十月七日現在 (順不同) | 吉川 山口 三輪 松島 久住 濱田 柴田 佐々木 川部 加藤 奥村 渡邊 山田 寺尾 田辺 近藤 小島 太田 伊東 渡辺 森 村山 村上 水野 | 抱雲 紅陽 盈夫 一子 里香 芳園 吟情 陽道 啓子 真郷 律子 望星 冽 泰子 向華 紫藍 荀媪 華水 紫江 一葉 菖苑 澄暎 紅翠 |
|--|---|--|---|---|---|--|--|---|--------------|---|---|

第三十六回 読売書法展入賞者

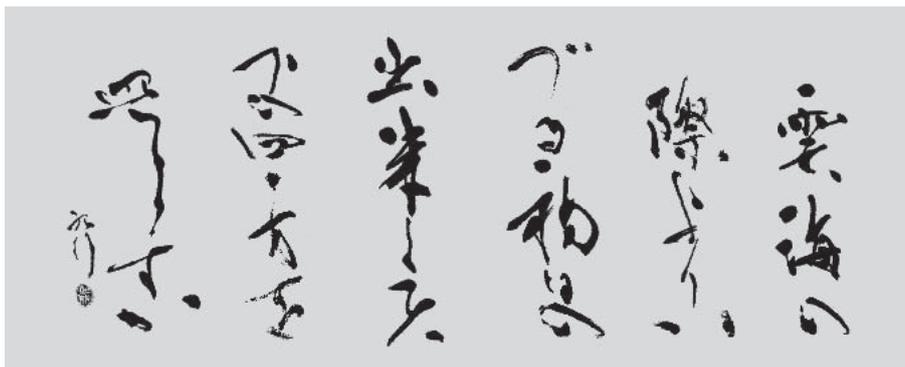
(本会会員関係分) (中部展出品者より)

読売準大賞

(調和体)

馬場 紀行

読売準大賞(調和体) 馬場 紀行



読売新聞社賞

(漢字)

庄田 華鳳

森本 夏溪

(かな)

岸本 静子

近藤由紀枝

成瀬 孝子



読売新聞社賞(かな) 近藤由紀枝



読売新聞社賞(かな) 成瀬 孝子

読売新聞社賞(漢字) 庄田 華鳳



読売新聞社賞(漢字) 森本 夏溪



読売俊英賞

(漢字)

小野 蹊泉

松井 秀峰

水野 清花

森 冬華

(かな)

久保田清葉

(調和体)

石黒 直子

松佐古溪水

(漢字)

井谷 李春

勅使河原恵翠

早川 杏花

原田 清尚

久田 花泉

松下 三雪

(かな)

鶴飼 清波

成田 尚子

(調和体)

倉田 朝華

特選

(漢字)

伊藤 谿石

大橋 南風

加藤 智加

鈴木 白翎

(かな)

井上 鈴子

加藤 玉華

鈴木 姫泉

高木由紀江

長谷川智美

古山 玉扇

(篆刻)

永谷加代子

(調和体)

石川 瑞祥

上田 清楓

河口 霄華

川本 俊子

読売奨励賞

秀 逸

西川 樹顛	夏目 美沙	中野 海堂	内藤 蒼月	遠山 柳恵	寺岡 春蘭	田代 青穂	竹中 青蘭	竹田 景汀	鈴木 葵峰	鈴木 雲峰	澁谷 峻山	佐藤 彩柳	桑原 静光	倉知 葉舟	河合 翠山	岡田 翔鳳	内川 昌子	猪又 松峰	稲垣 輝彩	伊藤 玉冰	家田 翠径	長谷川 緑光
松田 典子	橋本 富子	丹羽 博美	西尾 雅子	藤社 葉子	瀬古 光代	小島 幸波	加藤満寿江	加藤こづみ	大矢 大月	稲吉小夜子	稲吉 欣香	安藤 幸恵	安藤 香波	荒川 昌龍	吉田 翠竹	山田 光芳	安田 雪篁	水野 白映	水谷 天風	古田 清流	福山 恵山	西澤 晴香
			吉田八千代	森 奈々子	平松 主鳳	西脇 和子	豊嶋 青岑	戸松 香苑	滝川 祥苑	柴田 桃花	柴田 恵子	大武 英子	石橋 遊貴	荒川 昌龍	吉原 愛璃	山崎 曲全	堀 梅肇	伊藤 錦汀	山口 晶子	吉田千津枝	保田 翠溪	三浦 昭子

第七十一回 毎日書道展入賞者

〔本会会員関係分〕  
〔東海展出品者名簿より〕



毎日書道展会員賞 〈漢字部〉伊藤 杏崙

毎日書道展会員賞

〈近代詩文書部〉鈴木 凍山

毎 日 賞

〈漢字部Ⅰ類〉

谷口 琇苑

〈漢字部Ⅱ類〉

保田 翠苑

〈近代詩文書部〉

桜井 和香

下村 佳風

長谷川 結

松井香代子

〈漢字部Ⅱ類〉

竹内 南里

青木 榮俊

酒井 琴泉

森 絹泉

〈近代詩文書部〉

太田 龍峰

加藤 貴咲

鈴木 美月

中野 寿美

宮本 清霞

村田 籬香

竹内 紫燕

佳 作 賞

〈漢字部Ⅰ類〉

片岡 昌谷

滝本 白峰

中井 港星

森 政子

〈漢字部Ⅱ類〉

梶田 汀雨

片桐千賀子

築山 美香

土屋 春聲

〈近代詩文書部〉

大沢 真弓

神谷千恵子

近藤 瑤華

佐藤 晨麗

佐藤 緑風

志村 峯遠

遠 美峰

辻裏 友視

福岡 優慧

和佐田祐翠

若山 思鵬

渡辺 桂真

〈大字書部〉

小川 華舟

武野 桂華

中島祐三子

U 23 新鋭賞

〈近代詩文書部〉

梶田 汐里

U 23 奨励賞

〈近代詩文書部〉

加藤 秋穂

原田 沙季

会 員 賞

〈漢字部〉

伊藤 杏崙

〈近代詩文書部〉

鈴木 凍山

秀 作 賞

〈漢字部Ⅰ類〉

青山 高陽

兼子 圭葉

〈大字書部〉

竹内 紫燕

※両展共に、記載漏れについては極力注意をしておりますが、万が一ご座いましたら、本部までご連絡下さい。次号に掲載させて頂きます。

# 第70回記念 中日書きぞめ展作品募集

## ◆会 期 令和2年3月14日(土)・15日(日)

14日(土) 午後1時～午後6時

15日(日) 午前10時～午後6時

## ◆会 場 ナディアパーク2F アトリウム

名古屋市中区栄3丁目18番1号

## ◆授 賞 式 令和2年3月15日(日) 午後2時

ナディアパーク3F デザインホール

◆褒 賞 内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、衆議院議長賞、参議院議長賞、愛知・岐阜・三重各県知事賞、名古屋市長賞、愛知・岐阜・三重各県議会議長賞、名古屋市長賞、愛知・岐阜・三重各県教育委員会賞、名古屋市長賞、記念賞、中日書道会賞、中日新聞社賞、東海テレビ放送賞、CBCテレビ賞(以上申請中)、名誉会長賞、理事長賞、推薦、奨励賞、特選、準特選、秀逸、佳作、入選 ※会場には奨励賞以上の作品を陳列します。

★本年はCBCテレビ賞以上の作品を中日展(一般部展覧会)愛知県美術館8階に  
令和2年6月17日(水)～21日(日)まで展示します。

◆資 格 幼年・小学生・中学生・高校生

◆課 題 自由

◆出品要項 詳しい出品要項出品目録が中日書道会本部にありますのでお問い合わせ下さい。

◆作 品 ○用紙は、半切1/4縦(ハツ切)※高校生は半切縦も可 ○作品は、表装しないこと。  
○書体は、幼・小=楷書、中=楷書又は行書、高校生=自由  
○作品には、学年・氏名を必ず明記すること。

◆出 品 料 一点につき400円(個人出品者は賞品、賞状の郵送料として300円を加算して下さい。)

◆搬入締切 令和2年1月16日(木) 午前10時～午後3時  
(送付される場合は15日(水)中部日本書道会本部必着でお願いします。)

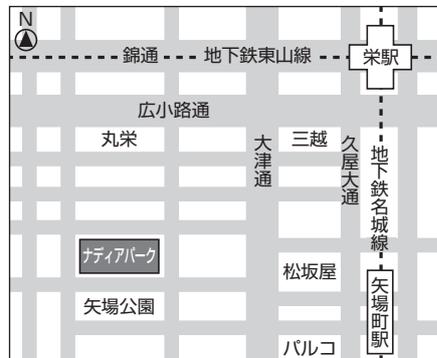
◆搬入場所 公益社団法人 中部日本書道会

〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階C号室

担当 教育部長 廣澤 凌舟

TEL (052) 583-1900 FAX (052) 583-1910

◆取 扱 所 伊藤大林堂、永楽堂、應天堂、魁盛堂、伽藍、菊屋商店、高誠堂、小松表具店、書遊 平野筆墨堂、新泉堂、青柳堂、荘文堂、大玄堂、長楽斎筆舗、名古屋キョー和、名古屋ハウコドウ、松屋紙店



## 第2回 手書き文字年賀状作品募集

公益社団法人中部日本書道会では、下記の通り年少者～高校生を対象とした第2回「手書き文字年賀状コンクール」を開催します。個性あふれる心温まる手書きの年賀状を奮ってご応募して下さい。

優秀作品を本会ホームページに掲載し、入賞者には図書券を贈呈します。

◆応募規定 ・出品料は無料。一人1点のみの出品とし、官製はがき又は同等の大きさに限る。(縦横は自由)  
・イラスト等入っていても可とするが、必ず手書きされたものに限る。  
・筆記用具は自由とし、小学校3年生以上は毛筆(筆ペンを含む)を奨励する。  
・宛名面左側に郵便番号・住所・氏名・学年(年少者は年齢)を明記の上、下記送付先に郵送のこと。

◆応募資格 ・年少者～高校生

◆応募締切 ・令和2年1月24日(金) 必着

◆作品送付 ・〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号 桑山ビル8階 C号室

◆問い合わせ先 公益社団法人中部日本書道会「手書き文字年賀状コンクール」係 TEL (052) 583-1900

◆入賞発表 ・1月末(予定)に本会ホームページにて優秀作品に掲載し発表とする。

・ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>

# 令和元年度 第23回 書の魅力 公開講座

会員及び一般市民を対象に、中部日本書道会を代表する2名の講師が書の魅力について講演します。

11月17日(日)

受付 12:30

開会行事 13:00

第一講座 13:15~14:15

理事

**馬場紀行先生**

演題「自詠を書くとは」

第二講座 14:35~15:35

理事

**原田凍谷先生**

演題「顔真卿の書法とは何か」

—先行録と従行録で考える—

閉会行事 15:35 修了証授与

**会場** 電気文化会館  
イベントホール (5階)  
名古屋市中区栄2-2-5

**日時** 令和元年11月17日(日)

**会費** 無料  
(ただしテキスト・資料代として2,000円集めさせていただきます)

**対象** 15才以上で原則として2講座とも聴講できる方

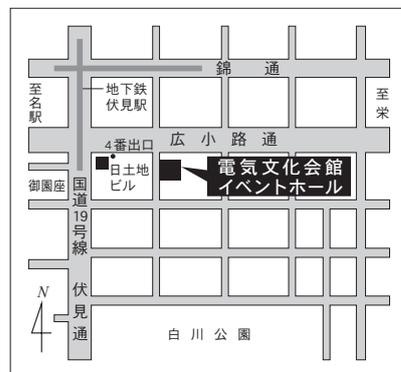
**定員** 100名(先着順)

**締切** 10月15日(火)

**申込** (1)郵便番号、住所 (2)電話番号 (3)氏名(ふりがな)を記載し、ハガキまたはメールで下記迄に申し込み下さい。

**ハガキ申込先** 〒450-0002 名古屋市中村区名駅二丁目45番19号  
桑山ビル8階 C号室  
中部日本書道会 公開講座係

**メール申込先** [koukai@cn-sho.or.jp](mailto:koukai@cn-sho.or.jp)



第28回 壽書展開催 会期 令和元年11月12日(火)~11月17日(日)  
会場 電気文化会館 (5階 東・西ギャラリー)

主催：公益社団法人 中部日本書道会・中日新聞社 後援：愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会

## 外国研修旅行補助制度のご案内

本会では、会員(準会員・正会員)が、視野を広め、見識を高め、教養の向上をはかることを目的に外国旅行をする場合、その費用の一部を補助する制度があります。

### ①補助の対象者

会員期間が満十年以上の者とする。

### ②補助金額

旅行先及び旅行日程にかかわらず二万円とする。

### ③補助回数

会員期間中一回とする。

### ④申請等の手続き

補助を受けようとする場合は、外国研修旅行補助申請書を提出する。

### ・申込期日

原則として旅行予定日の一ヶ月前までに提出する。

### ・旅行の変更

旅行の予定変更又は中止の場合は、直ちに外国研修旅行変更(中止)届を提出する。

### ・添付書類

旅行費用を払い込んだ会員は、申請書に受領書(旅行先・日程等明記)又はその写しを添付する。

### ・補助金の交付

申請書を審査し、適格者に対して銀行振込により交付する。

### ・事後報告

旅行を終了した会員は、速やかに外国研修旅行終了報告書を提出する。

### ⑤補助金の返還

補助金を交付した後に、旅行中止の場合は、補助金は返還させるものとする。

会員の皆様は、この補助制度を大いに利用して下さい。

担当 総務部

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

## 新入会員紹介 (八・九月份)

●北勢支部

川瀬 慶翠  
中村 佳泉

### 訃報

心より哀悼の意を表し、ご報告申し上げます。(厚生部)

○7月31日

評議員 川角蘭香氏 享年89才

○8月18日

正会員 鈴木清芳氏 享年86才

○9月5日

評議員 榎 青萌氏 享年83才  
夫 親俊様 享年69才

○9月18日

正会員 長田正嗣氏 享年69才



### あとがき

中日会報第一九四号をお届けいたします。

第三十一回教育研修では、二名の先生方に実技を交えた充実の研修を行って頂き、二回目となります。夏休み毛筆体験教室では、昨年に比べ多くの小中学生の申し込みとなり、三回に分けて盛況に実施されました。また、各支部に於いて行われま

す様々な事業活動の報告も掲載させて頂いておりますので、合わせてご覧下さいませ。

そして近年、地震・台風・豪雨等の災害が各地で起こっております。巻頭でご案内致しております「チャリティー愛の募金」へ、皆様方の暖かいお気持ちのご協力を、宜しくお願い致します。

(編集部)

ホームページアドレス <http://www.cn-sho.or.jp>  
メールアドレス [info@cn-sho.or.jp](mailto:info@cn-sho.or.jp)

# 支部だより(令和元年度上半期)

## 一宮支部

### ●二〇一九 一宮総合美術展

会 期 六月六日(木)～九日(日)  
 会 場 一宮スポーツ文化センター  
 出品者 一宮支部員四十五名  
 主 催 一宮市教育委員会  
 一宮市芸術文化協会

一宮市芸術文化協会に所属する書道・日本画・洋画・彫刻立体・デザイン・工芸・写真の、各団体から推薦された作家による、一宮市が誇る総合美術展です。

一宮支部からは四十五名が各々の思いで書かれた半切以上の大作を出品、全部門で総勢百五十名による大展開会であり、多くの方々に楽しくご観覧いただきました。

書部門の代表理事を務める当支部は、出品だけではなく、陳列・会場当番等の協力も行いました。



2019 一宮総合美術展



第26回 選抜作品展



一宮七夕まつり学生書道展

### ●第二十六回選抜作品展

会 期 七月十三日(土)～十四日(日)  
 会 場 一宮スポーツ文化センター  
 出品者 一〇一名

「おりの感謝祭一宮七夕まつり」の協賛行事であり、一宮書道連盟主催第四十七回七夕まつり学生書道展とあわせ、一宮支部として後援しています。

この「選抜作品展」は、支部役員を中心に学生書道展参加指導者も出品し、「読めて、見て、楽しくユニークな小作品」をモットーとしています。各々表現方法に工夫を凝らした作品も多く、立ちどまって見入る来場者も少なくありません。

学生書道展と同会場にて開催されるため、ご家族での参観者も多く、良きふれあいと学びの場になりました。

## 半田支部

### ●第五十五回学童書道展

会 期 七月六日(土)～七日(日)  
 会 場 半田市福祉文化会館  
 出品数 一八九九点

支部役員と出品指導者により厳正な審査が行われ文部科学大臣賞をはじめ、多くの賞を決定。今年も元

気のいい声が会場に響き、その後嬉しい笑顔の家族、そして記念写真、毎年同じ光景だが見ていると此方も嬉しい。来年もこの元気のいい声と笑顔を見るために頑張りたいと思う。



学童書道展

### ●「寿」色紙贈呈

寄贈日 八月三十日(金)  
 寄贈先 半田市、東浦町、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町

寄贈数 七二〇枚  
 本年も近隣一市五町の高齢者の方々へ市・町を通して贈呈しました。



「寿」色紙贈呈

### ●第五十三回半田支部展

会 期 九月二十二日(日)～二十三日(祝月)  
 会 場 半田市福祉文化会館  
 出品数 一二〇点



支部展

本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、松下英風副理事長、加藤裕副理事長、横井宏軒事務局長、大池青岑企画委員長の玉作を賛助出品していただき会場に花を添えていただきました。今年も出品作品が多種多様で、それが互をひきたてあうようにも感じの見応えのある作品展でした。

### ●第五回公開書道研修会

会 期 九月二十二日(日)  
 会 場 半田市福祉文化会館  
 参加者 四十一名

本年は「淡墨を楽しむ」をテーマに、横山夕葉先生より古典からの文字選び、紙と墨の相性、時間差による墨の変化、毛細管現象等のお話しをいただき、その後、実技指導をいただき最後に先生の実演を拝見させていただき淡墨の美しさに参加者一同感激していました。短い時間でしたが皆さん大変満足して見えました。



公開書道研修会

西三河支部

第五十二回学生書道展

期日 七月五日(金)～七日(日)

場所 岡崎市美術館

出品点数 五、五四六名

(うち高校生三〇四名)

入場者数 一、九五六名

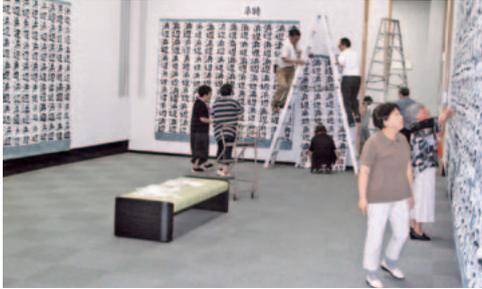
学生展は、毎年テーマを決めて開催しており、今年のテーマは「海」。会期中の来場者の内、高校生以下には、支部名入りの鉛筆を配布し、書道の普及に努めました。今年も多くの家族連れで、盛大に開催することができました。

(課題)

幼年	つり	一年	かり
二年	うみ	三年	水上
四年	白波	五年	灯台
六年	浜辺	中一	海原
中二	潮風	中三	航海
高校生	海洋生物		



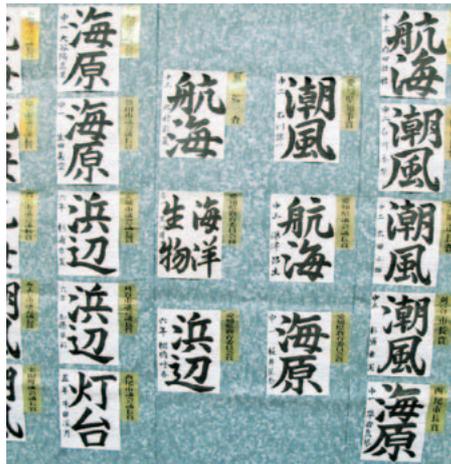
学生展会場風景



展示作業



賞品発送作業



特別賞作品

課題決定から賞品発送までの作業を事務局員一同一致団結して作業を行い、大きなトラブルもなく終了することができ、感謝しております。

運営委員会 六月二日  
企画委員会 四月二十一日  
五月十二日  
七月二十八日

東三河支部

東三河支部展

会期 七月九日(火)～十四日(日)

会場 豊川市桜ヶ丘ミュージアム

一、二、三、四室

出品者 支部会員

出品数 一一九名

本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、横井宏軒事務局長、大池青岑企画委員長、六名の先生方の玉作を賛助出品していただき、第四十二回東三河支部展を開催しました。



展覧会風景

今年は、中日書道展に飾られた、諸先生方による元号の揮毫色紙をお借りして、会場に展示させていただきました。「大化」から「令和」まで、諸先生方の個性豊かな色紙に、多くのお客様が興味深く見入っていました。

たくさんのお客様にご来場いただき、温かいご指導や励ましを賜り、盛会のうちに展覧会を終えることができました。

講演会

日時 七月十三日(土)午後三時半

会場 ロワジールホテル豊橋 桜の間

聴講者 七十九名

講師 豊橋市美術館副館長 三世喜徳氏

演題 「絵葉書に見る豊橋」

講師の三世喜徳氏は、豊橋市美術館副館長兼事務局長を勤めてみえ、日頃展覧会開催の折には大変お力添えをいただいております。

はじめに「絵葉書宛名の変遷・第一期(Ⅴ期)から絵葉書の歴史が紹介されました。明治に絵葉書ブームが起き、官公庁・学校・



会員交流会風景



講演会風景

企業・寺院・個人などが記念品・土産・広告媒体として絵葉書を発行、豊橋でも数多くの絵葉書が刊行されました。そして、絵葉書に写された風景や建物から豊橋の変遷を知ることができるといって講演でした。日頃何気なく手にする絵葉書にも歴史的な価値が潜んでいることを知り、豊橋の風景を写した絵葉書が画面に映し出されるたびに昔を懐かしむ声が会場から聞こえ、和やかな講演会になりました。

会員集会・交流会

日時 七月十三日(土)午後五時十五分

会場 ロワジールホテル豊橋 桜の間

参加者 九十五名

本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長のご臨席を賜り、令和元年度東三河支部会員集会を開催しました。平成三十年事業報告並びに令和元年度事業計画、平成三十年度収支決算報告及び令和元年度収支予算案について報告、新事業「東三河子ども書道展」についての提案があり、満場一致で無事会員集会議事を終えることができました。

引き続き会員交流会に入り、伊藤仙游理事長からお祝いの言葉や温かいご指導をいただき、岡野楠亭副理事長の乾杯のご発声で会が始まりました。歓談の途中、第六十九回中日書道展入賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手でお祝いしました。

濃飛支部

●第一回企画委員会 付知町『まえだ』

四月二十七日(土)濃飛支部展その他

●第一回役員会 中津川市にぎわいプラザ

七月二十五日(木)支部展役割等について

●濃飛支部展 中津川にぎわいプラザ5F

七月二十五日(木)～七月二十七日(土)

出品点数一四六六点(令和色紙七十六点を含む)

賛助出品(本部より)六点

今年是新役員体制の中展示に戸惑う事も  
ありましたが皆さんの協力により展示まで  
漕ぎ着ける事が  
出来ました。特  
に『令和』の文字  
の色紙は篆書・  
隸書等様々な工  
夫がなされてい  
ました。展示の  
仕方にもう一工  
夫あるとよかつ  
たなと思いまし  
た。 参観者は三



支部展

日間で三五十名

●総会 七月二十七日(土)中津川市にぎわいプラザ

本部より佐野翠峰先生、山内江鶴先生を  
お迎えし濃飛支部総会が開かれました。参  
加者は三十名、令和元年度役員について、令  
和元年度事業報告、収支決算報告が行われ  
了承されました。次に元年度事業計画並び  
に収支予算案が提示され可決されました。

●講演会 七月二十七日(土)中津川市にぎわいプラザ

講師 濃飛支部長 三野島凌雲

演題 幕末維新時代の能書家―令和時代

書の隆盛に何を望む―

講演会場には高山市に残されている頼山  
陽、山岡鉄舟、中林梧竹、丹羽海鶴等幕末  
能書家の実物の書が飾られており圧巻でし  
た。先生は沢山の資料を用意され限られた  
時間の中で幕末の  
能書家の話や書に  
対する心の向い様  
について熱く語ら  
れました。

受講者は三十名  
中津川市出身の丹  
羽海鶴の話をもう  
少しすれば良かつ  
たかな?ともおっ  
しゃってみえまし  
た。



講演会風景

●交流会 七月二十七日(土)中津川照寿庵

本部より佐野先生、山内先生をお迎えし  
六時頃より交流会が開かれました。オープ  
ニングは「Fireagle (トレ・フィアリーエ)」に  
よるフルート、ヴァイオリン、ピアノの三  
重奏で幕を開けました。美しい女性三人に  
よる美しい演奏に後片付けまであわただし  
さを忘れる程でした。本部の先生の挨拶の  
あと照寿庵の心のこもった御馳走やおもて  
なしに感動しながら会員相互の交流を深め  
ました。



交流会 三重奏

北勢支部

●第三十三回北勢支部展

会期 七月十九日(金)～二十一日(日)

会場 四日市文化会館 一階展示室

出品数 八十七点

入場者数 三五〇名

本部からは伊藤仙游理事長、岡野楠亭副  
理事長、松下英風副理事長、加藤裕副理事  
長、横井宏軒事務局長、大池青岑企画委員  
長の玉作を拝借し、会場に花を添えて戴き  
ました。会員の作品は漢字、仮名、調和体  
等、さまざまな書風で又、篆刻の作品も多  
く、見ごたえのある支部展となりました。  
講習会で教えて頂いた日本画の花の絵を添  
えたハガキに得意の書を書き壁面に飾りま  
した。来場者の方にも書いて頂くコーナー  
を作り盛況でした。九十四才の方から二十  
才の方までが参加し力作揃いでした。



支部展

●支部集会 講演会 懇親会

日時 七月二十一日(日)

会場 四日市文化会館第三ホール

本部より岡野楠亭副理事長、横井宏軒事  
務局長、大池青岑企画委員長をお迎えし、  
平成三十年度事業報告、収支決算報告、令  
和元年度事業計画案、予算案が承認されま  
した。

講演会、懇親会

講師 副理事長 岡野楠亭先生

演題 「印章と落款印」  
参加者 七十二名



岡野先生 講演会風景

印の歴史を画  
像を見ながらわ  
かりやすく、教え  
て頂きました。官  
印、春秋戦国時代  
に、皇帝から使者  
が本場の使者で  
あるか証拠とし  
て携帯し、白印が

多く用いられていたそうです。私印、姓名  
印も多く、秦代、漢代に入ると様々な華や  
かな印章が作られました。その頃の篆刻が  
今でも模範になっています。その頃の篆刻が  
をまず押す、次に字印、雅号と押すことが  
正式、印はいくつ押しでもいいそうです。  
長年書道を学んできましたが知らなかった  
事が多く大変勉強になりました。これから  
印を押す想いが変わりました。皆さん熱心  
に拝聴され、貴重な学びを頂きました。  
講演後、シティホテルに移動。岡野先生、  
横井先生、大池先生を囲んでの楽しく和や  
かな懇親会でした。

中 南 勢 支 部

令和元年度、上半期の行事はありません。後期に集中しております。昨年度より支部展開催中に支部集会、講演会を開催しております。後期の事業計画を記載致します。

令和元年度事業計画

●中南勢支部研修会

令和元年十月二十日(日)

「運河と蔵のまち半田」

「ごんぎつね」と南吉の文学世界を訪ねて、  
他、運河等散策

●中南勢支部展

令和元年十一月十三日(水)～十一月十七日(日)

三重県立美術館 県民ギャラリー



「ごんぎつね」と南吉文学の世界

「ごんぎつね」は、川で兵十が捕っていたウナギを盗んでしまいます。しばらくして兵十の母の葬列を見たごんは、ウナギは病気の母に食べさせるためのものだったのでは、と考えます。ごんは、自分と同じひとりぼっちになってしまった兵十につぐないをしようと、山で栗や松茸を探っては、こっそり兵十の家に置いておきました。しかし、ある日、ごんがまたいたずらに來たと勘違いした兵十は、火縄銃を手に取り……



●中南勢支部集会・講演会・懇親会

令和元年十一月十六日(土)

三重県立美術館講堂にて講演会

講師 辻 富英雄氏

演題 『遺跡発掘と書の出土』

本部より鬼頭翔雲名誉副会長、伊藤仙遊理事長、岡野楠亭副理事長、横井宏軒事務局長の御臨席予定で、その後懇親会へと移ります。

行事が下半期に集中しておりますので会員一丸となって意義ある諸活動の企画実行に励みたいと思います。本部始め会員皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。

岐 阜 支 部

●岐阜支部展を終えて

〓 撰拙は功心に勝つ。伊藤仙游理事長の作品をはじめ、岡野楠亭、加藤裕、松下英風副理事長先生の個性ある、すばらしい作品が壁面を、グウツと引き締め、岐阜支部展が開会致しました。出品点数は二四八点、昨年とほぼ同じですが、依嘱以上の作品が総点数の半分余を占めております。その委嘱以上の作品が一段と力強く、余白を生かし、斬新さがあり、会場を盛りあげているかと思われまます。

伊藤理事長は、若い人が少ないのと言われましたが、これは致し方ございません。毎年、岐阜ではパフォーマンスもやっ



支部役員先生方の作品



陳列風景



展示風景

て頂いておりますが、すぐには……。それで少しでも、現在会員の一人、一人の皆さんが書くことの喜び、書くことが好きになってもらう。好きになることが内容を高め、質の向上につながるかと思われまます。会場での四日間、陳列、当番、搬出をやり乍ら、会員同志、楽しく、和やかに、仕事もし、会話もし、その中、身近に。静かに。じっくりと。見、学んでいただけた事と思ひます。支部展ならばこそその妙趣、ありがたいなと思ひつづ。

ご遠方より、お越しをいただきました皆様、ありがとうございました。

業者の皆様、お暑い中をお世話になり、ありがとうございました。